

## 集会アピール

本日、私たちは、連合「安心と信頼の医療と介護」2016中央集会を開催し、医療と介護をめぐる実態や、働く人の処遇改善に向けた課題について、全国から集まった仲間とともに、活発な意見交換を行いました。

団塊の世代が75歳を迎える2025年が迫っています。しかし、全ての人が満足できる医療と介護の提供体制は、まだ十分とは言えません。それぞれの地域にとってふさわしい姿をめざして絶え間なく議論を深め、住み慣れた地域で暮らし続けることのできる、多職種連携による「地域包括ケアシステム」の構築を進めていくことが不可欠です。

本集会では、介護を理由とした離職のない社会を実現するためには、医療と介護の連携を始め、様々な課題があることがわかりました。利用者と、それを支える家族や周囲の人たちが安心・信頼できるサービスの確立に向け重要なことは、人材を確保し、人員体制を強化することです。このためには、処遇や労働環境の改善を進め、医療と介護の職場を、いまよりも更に魅力的なものにし、働く人が生きがいをもって長く働き続けられるようにすることの必要性を認識しました。

いま労働組合にできることは、それぞれの働く職場での取り組みや連帯をさらに強めていくとともに、職場や地域の声を結集し、医療・介護の実態を広く国民に訴え、処遇改善や政策実現の力にしていくことです。そのためにも、私たち労働組合の仲間を一人でも多く増やしていくことが必要です。連合がめざす「働くことを軸とする安心社会」、「1000万連合」の実現、そして、来る参議院議員選挙の勝利をめざし、本集会をきっかけに、一人ひとりが行動していきましょう。

2016年5月14日

連合「安心と信頼の医療と介護」2016中央集会